

掛軸 陶器

無料鑑定 出張いたします
売るのも買うのも
何でもご相談下さい

ザ・タリ- 株式会社

株式会社 らいぶ社

0120
イーヨ コーポレーション
14-5448

岐阜市本荘中ノ町10丁目37-3
(県美術館東へ200m)

「粗朶」の効果や 生産課題を紹介

各務原で講演会

里山に生える雑木を束ねた「粗朶」を切り口に、山と川と海のつながりを考える講演会が17日、各務原市

那加桜町の市産業文化センターであった。県立森林文化アカデミー（美濃市）の柳沢直教授（55）は植物生態学が、粗朶のもつ効果や



粗朶の使われ方などを解説する柳沢教授は各務原市那加桜町の市産業文化センターで

生産の課題を語った。

粗朶は細い広葉樹を周囲60センチほどの円筒状に束ねた、土木工事の資材。柳沢教授は、護岸工事などでコンクリートブロックの下に粗朶を敷き詰めブロックの崩落を防ぐ「粗朶沈床」の工法を紹介。「陸上からは見えないが、まさに縁の下の力持ち」と評し、粗朶に魚群がすみ着くなど環境にもメリットがあることを伝えた。

現在は里山が減った上、高齢化による担い手不足で粗朶の生産が追い付かず、粗朶を使った工事ができない悪循環があると指摘。山の養分が流れ込み海の生物を守っていると、山の恵みが海で使われ豊かになる。山から海へのつながりを意識することが大事だ」とまとめた。

濃尾地域の地名や歴史に関心をもつ人でつくる「濃尾・各務原地名文化研究会」が主催（中日新聞社など後援）。約80人が耳を傾けた。（中根真依）